

自主防災組織について

災害が発生したとき、それを防いだり被害を最小限に食い止めるためには、自分の家が無事なだけではいけません。住んでいる地域全体が守られて、はじめて自分や家族が安全になれるのです。

自主防災組織とは、「自分たちの地域は自分たちで守る」を理念とし、安心して安全に暮らせるまちをつくるために、町民のみなさんが共に協力しあって防災活動を行う組織です。

自主防災組織の組織表（例）



平常時の活動

① 防災知識の普及

地域のお祭りや運動会等での防災イベントの実施、回覧板を使った啓発など

② 防災資機材の整備

ヘルメット、消火器、担架、ハンマーなどの作業道具、救急医薬品、非常食品等の防災資機材や備蓄品の整備・管理など



③ 防災巡視・点検

地域内における燃えやすいものや、ブロック塀、看板等、倒れやすいものの点検など

④ 防災訓練の実施

情報の収集・伝達訓練、消火活動訓練、避難誘導訓練、救出救護活動訓練、給水給食活動訓練など



災害時の活動

① 情報の収集・伝達

町や消防署等の公的防災機関からの、災害に関する正しい情報の収集・伝達など

② 消火活動

出火防止のための活動や、消火器、バケツリレーなどによる消火活動など

③ 避難誘導

地域住民の安否確認、避難所等の安全な場所への避難誘導、要配慮者への支援など



④ 救出救護活動

負傷者や倒壊した家屋などの下敷きになった人たちの救出・救助活動や負傷者の応急手当、救護所への搬送など



⑤ 給水給食活動

備蓄食料等による給食、救援物資の避難所への運搬及び配分など



わが家の防災対策&チェック

家の中の安全対策

事前に準備出来ているか、チェック✓しましょう。

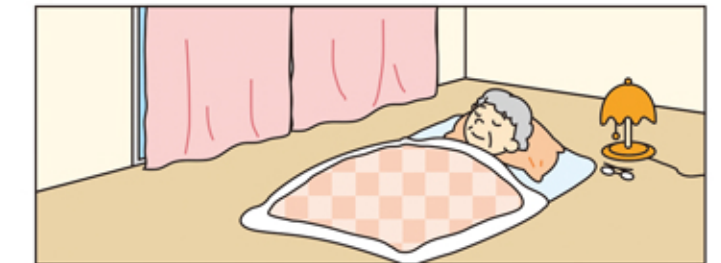
1 □ 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換えする。



2 □ 寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を置かない

就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性がある。



3 □ 家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



4 □ 安全に避難するため、出入口や通路にもものを置かない

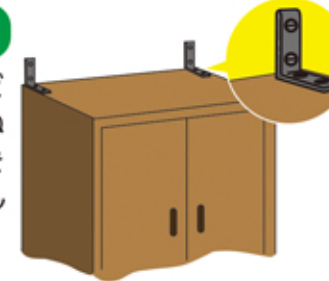
玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。



家具の転倒、落下を防ぐポイント

タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



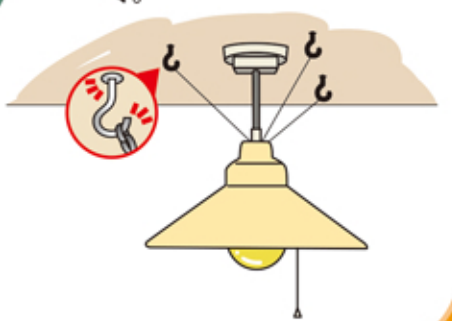
食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



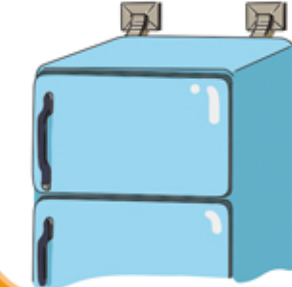
照明

チェーンと金具を使って数箇所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



冷蔵庫

2ドアの場合は、扉と扉の間に針金などを巻いて、金具で壁に固定する。



テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く。家具の上はさける。



家の周囲の安全対策

事前に準備出来ているか、チェック✓しましょう。

□ 屋根

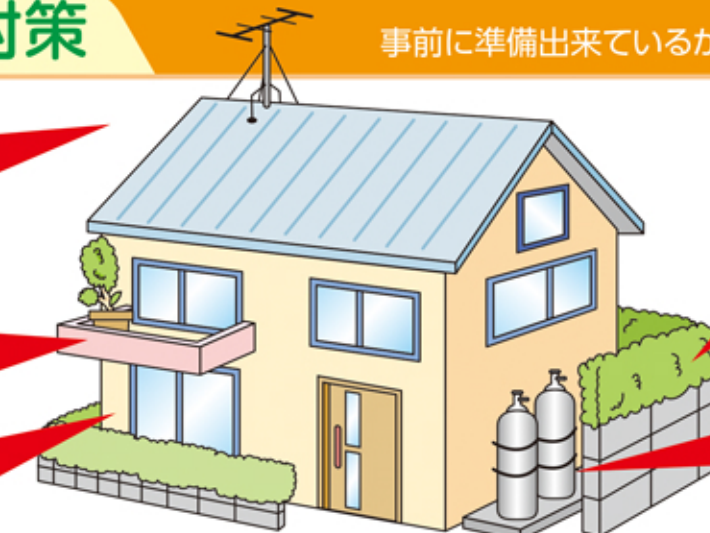
不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。

□ ベランダ

植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。

□ 窓ガラス

飛散防止フィルムをはる。



□ ブロック塀・門柱

土中にしっかりと基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

□ プロパンガス

ボンベを鎖で固定しておく。

